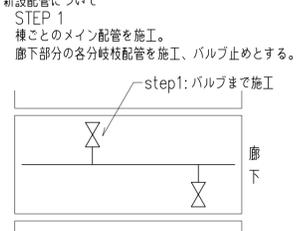
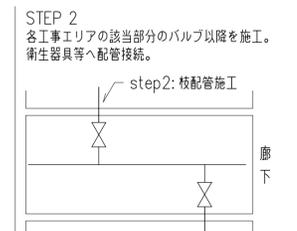
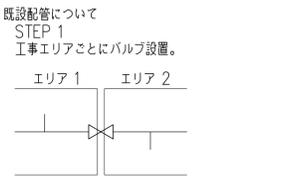
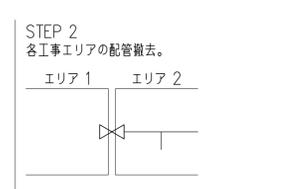
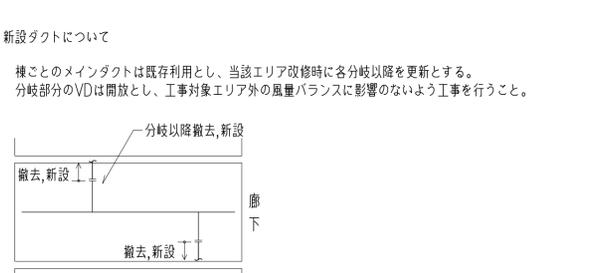
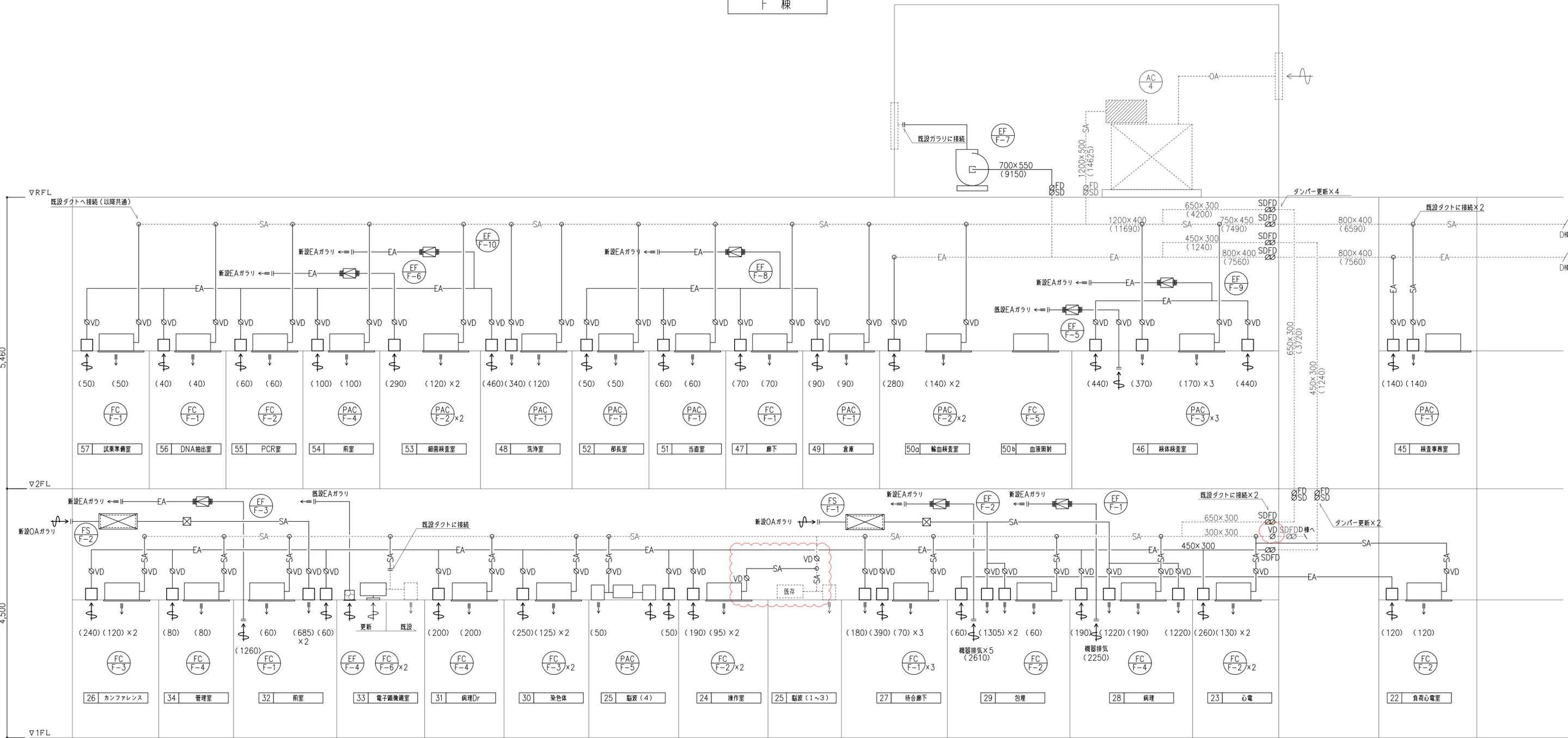


章	項目	特記事項	■14) 検査	■15) 工事区分	■16) 提出書類	■着工時	■工事中	■17) 工事保証	■18) 現場代理人の資格	■19) 技能士の適用	■20) 監理者事務所	■21) 工事用水	■22) 工事用電力	■23) 工事用仮設物	■24) 残土処分	■25) 埋め戻し	■26) 特記事項	■4. 共通工事仕様	■1) 適用	■2) 定義	■3) 仕様の指示	■4) 優先順位	■5) 疑義に対する協議と記録	■6) 官公署等への手続き	■7) 別契約の関連工事	□8) 支給材料	■9) 発生材の処理	■10) 第三者損害に対する配慮	■11) 材料	■12) 材料試験	■13) 立会い	■8) 構造安全性	■9) 保温	■10) はつり	■11) 他工事との取り合い	■12) 機器塗装色の指定	■13) 機器配管等の取付	□14) 蓄熱槽施工管理	■15) その他	5. 病院改修の留意点	■1) 騒音・振動対策	■2) 臭気対策	■3) 工事中の環境汚染管理	■4) 工事中の作業時間	6. 改修工事のステップ																		
1. 空調設備概要	□1) 熱源設備	( ■ 印の付いたものを適用する) (概要を示すもので仕様を特定するものではない) □冷凍機( □ターボ □スクロール式 □吸気式 □スクルー式 ) □直火冷水発生機( □ガス □油 ) □蒸気式冷水発生機 □温水ボイラ( □銅製 □鋼製 □減圧型 ) □蒸気ボイラ( □鋼製 □炉筒煙管式 □貫流式 ) □ヒートポンプ( □スクロール式 □スクルー式 □氷蓄熱ユニット )	■指示された材料、製品および機器の検査 ■指示された工程完了時点での中間検査 ■竣工検査	取り合い工事区分は、別紙工事区分表とする。 設備機器の位置、取り合いなどの検討できる資料を関連機器と調整の上、総合図を提出し、監理者の承諾をうける。	工事の準備・着工・進行・完成に際して、下記に指示する図書については延滞なく作成し、監理者に提出すること。 提出部数 ■3部(発注者・監理者用・施工者控用) □部数は監理者の指示による	■工事請負契約書 ■請負代金内訳書 ■損害保険証書 ■工事着手届 ■主任技術者および現場代理人届 ■専門技術者届 ■工事現場編成届 ■現場常駐職員届 ■工事工程表 ■仮設計画図 ■下請業者承諾および一覧表 ■機器・材料製造者承諾および一覧表 ■工事記録報告書 ■日報 ■週報 ■月報 ■工事進捗度 ■就業状況 ■搬入材、使用材状況 ■工事記録写真 ■施工計画書 ■施工要領書 ■施工図・機器製作図 ■総合図 ■試験・検査報告書 ■現場打合せ記録 ■申請・届出書類一覧表および同控 ■出来高調査および承諾願・請求書 ■変更工事見積書 ■自主検査報告書 ■工事完了届 ■竣工引渡書および受領書 ■図書明細書および受領書 ■検査済証 ■使用許可書 ■申請書・届出書 ■保証書 ■機器取扱説明書 ■備品類明細書および受領書 ■縫および鍵箱 ■備品 ■予備品 □工具および工具箱 ■保安工事図 ■竣工図 ■原因 ■製本 ■A3判縮小製本 ■修正CADデータ(CD-ROM) ■施工図製本 □竣工写真(指定アルバム)(DWG・DXF・JWW)	■竣工引渡し後、かしの担保期間内において工事不良のため生じた損害は、請負者の負担において、迅速、丁寧に復旧するものとする。	つぎの資格を有するものとする。 ■管工事施工管理技士( ■1級 □2級) □建築設備士	■竣工引渡し後、かしの担保期間内において工事不良のため生じた損害は、請負者の負担において、迅速、丁寧に復旧するものとする。	■管工事施工管理技士( ■1級 □2級) □建築設備士	1) 特記事項のうちで選択する事項は ■印を適用する。	1) この特記仕様書は本工事の仕様についての特記である。 2) ここで述べる設計図書とは質疑回答書・現場説明書・特記仕様書・設計図書の総称である。	1) 本工事の仕様について設計図書に記載(指示)のない場合は下記仕様書の最新版による。 ■ 公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編)(社)公共建築協会 発行) ■ 公共建築改修工事標準仕様書(機械設備工事編)(社)公共建築協会 発行) (以下、「標仕」という。) ■ 建築工事標準仕様書・同解説(社)日本建築学会 発行)(以下、JASSという。)	本工事の仕様適用に対する優先順位は下記の通りとする。 ① 質疑回答書 ② 現場説明書 ③ 特記仕様書 ④ 設計図書 ⑤ 標仕およびその他の仕様書	設計図書に不備・不明の箇所を発見し、または疑義が生じたときは直ちに監理者と協議し、その協議の結果について監理者の承認付の記録書を作成しておくものとする。	本工事に関係ある法令、(条例等を含む広義の法を指す。以下、同じ)を遵守し、必要ある届出、手続きはすべて請負者が行う(但し、建築確認申請は除く)。その手続きに関する費用は請負者負担とする。	別契約の関連工事については、監理者の指示により、当該工事関係者と協力し、工事全体の円滑な進捗を図る。	支給材料・機器および貨品は、下記リストによる。 □	□ 指示された場所に整理(残材調書を添えて引渡す。) ■ 産業廃棄物として、関係法令に従い、かつ行政の指導をうけ承諾をうけた場所に搬出適切に処理。	本工事の施工により騒音、振動、塵埃、地盤沈下、道路損傷、通行障害等近隣に及ぼす公害が発生しないよう、各種法令を遵守し関連官公庁の指導をうけて進めること、万一損傷その他の危害が発生した場合は、請負者の負担により速やかに補償および補償をすること。	使用する材料および寸法等はJISおよびJASSの規格品とし本特記仕様書で指定されたメーカーおよび材料以外を使用する場合は同等とし、予め監理者に申し出て承諾をうける。 1) 本工事に使用する建材は、原則として「ゼロアス」の製品・資材とすること。 「ゼロアス」：アスベスト含有0% 2) 代替品が無い等の理由により、1) 以外の製品・資材を使用する場合には、監理者の承諾を得ること。 3) 竣工引渡し書類の「環境配慮事項まとめファイル」にゼロアスも含めてMSDS(製品安全データシート)を入れ、監理者に内容確認の上、施主へ提出・報告する。	工事に使用する材料のうち、設計図書に定められたもの、または監理者の指示のあるものは、公的試験所または監理者の認める試験所で試験を行い、その試験成績書を監理者に提出して、確認を受けなくてはならない。なお、これに要する費用は請負者の負担とする。	本工事の施工にあたって、監理者の立会いを受けなければならない項目は下記のものとする。 ■ 指示された施工または試験 ■ 各法令に基づく諸官庁の検査	■ 東日本大震災による耐震対策報告書(一般社団法人建築設備技術者協会)の以下によること。 ■ 標準的対策 □機能的対策	建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして以下の構造方法による。 ■ 建築設備(昇降機を除く。)、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとする。 ■ 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。 □ 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支柱を設けたものを除き、90cm以下とすること。 □ 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、 ■ 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。 ■ 建築物の部分貫通して配管する場合には、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等、有効な衝撃損傷防止のための措置を講ずること。 ■ 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可とう継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。 ■ 管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。 ■ 法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものについては、建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。 ■ 給湯設備は、支持構造部及び緊結金物を腐食又は腐朽のおそれがないものとするほか、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。	(1) 「標仕」によるほか下記による。ただし各工事種目で別に指定されたものは除く。 又、保温材は原則としてグラスウールとする。 (2) ダクトの保温外装は下記による。 <table border="1"> <tr> <td>屋 倉庫・書庫</td> <td>■アルミガラスクロス □アルミホイルペーパー+カラー金網</td> </tr> <tr> <td>内 各階機械室</td> <td>■アルミガラスクロス □アルミホイルペーパー+カラー金網</td> </tr> <tr> <td>露 主 機 械 室</td> <td>■アルミガラスクロス □アルミホイルペーパー+カラー金網</td> </tr> <tr> <td>出 居室・廊下など</td> <td>■カラー亜鉛鉄板 □アルミニウム板</td> </tr> <tr> <td>屋内隠ぺい、DS内</td> <td>□アルミホイルペーパー+カラー金網 ■アルミガラスクロス</td> </tr> <tr> <td>屋外露出、多湿箇所( )</td> <td>■ステンレス鋼板 □カラー亜鉛鉄板 □ガルバリウム鋼板</td> </tr> </table> (3) 配管の保温外装は下記による。(冷媒管は除く) <table border="1"> <tr> <td>屋 倉庫・書庫</td> <td>■アルミガラスクロス □アルミホイルペーパー+カラー金網</td> </tr> <tr> <td>内 各階機械室</td> <td>■アルミガラスクロス □アルミホイルペーパー+カラー金網</td> </tr> <tr> <td>露 主 機 械 室</td> <td>■アルミガラスクロス □アルミホイルペーパー+カラー金網</td> </tr> <tr> <td>出 居室・廊下など</td> <td>■綿布 □アルミガラスクロス</td> </tr> <tr> <td>屋内隠ぺい、DS内</td> <td>□アルミホイルペーパー+カラー金網 ■アルミガラスクロス</td> </tr> <tr> <td>屋外露出、多湿箇所( )</td> <td>■ステンレス鋼板 □カラー亜鉛鉄板 □樹脂製ダクト □ガルバリウム鋼板</td> </tr> </table>	屋 倉庫・書庫	■アルミガラスクロス □アルミホイルペーパー+カラー金網	内 各階機械室	■アルミガラスクロス □アルミホイルペーパー+カラー金網	露 主 機 械 室	■アルミガラスクロス □アルミホイルペーパー+カラー金網	出 居室・廊下など	■カラー亜鉛鉄板 □アルミニウム板	屋内隠ぺい、DS内	□アルミホイルペーパー+カラー金網 ■アルミガラスクロス	屋外露出、多湿箇所( )	■ステンレス鋼板 □カラー亜鉛鉄板 □ガルバリウム鋼板	屋 倉庫・書庫	■アルミガラスクロス □アルミホイルペーパー+カラー金網	内 各階機械室	■アルミガラスクロス □アルミホイルペーパー+カラー金網	露 主 機 械 室	■アルミガラスクロス □アルミホイルペーパー+カラー金網	出 居室・廊下など	■綿布 □アルミガラスクロス	屋内隠ぺい、DS内	□アルミホイルペーパー+カラー金網 ■アルミガラスクロス	屋外露出、多湿箇所( )	■ステンレス鋼板 □カラー亜鉛鉄板 □樹脂製ダクト □ガルバリウム鋼板	既存コンクリート床、壁等の配管貫通部の穴開けは、原則としてダイヤモンドカッターによる。構造上影響を及ぼさないよう適切に処理を行うこと。 スリーブ、箱入りその他他工事との取り合いは、別紙工事区分表によるものとし、施工に支障を来さない時期までに、必要な位置、大きさなどを明記し、監理者と打ち合わせる。 原則として製造者標準色とするが、下記の機器については塗装色の指定を行う。 □有圧扇フード □空調屋外機 ■換気用ベントキャップ □消火栓ボックス ■屋外露出部の機器・配管等取付のための支持架台・金物は、溶融亜鉛メッキとする。同用ボルト・ナット等は、ステンレス製とする。取付に際しては、異種金属接触を確実に行うこと。 ■機械室及び屋上の床上配管には、点検が容易に出来るように監理者の指示により部分的にデッキ等を取付けること。 □蓄熱槽の清掃、水張り試験後、満水状態で水質測定を行い、基準値を満足していることを確認すること。 □蓄熱槽系の配管フラッシングは、蓄熱槽以外フレッシュな用水を確保し、又、蓄熱槽以外の排水先を確保して行うこと。 天井点検口裏面に点検用途の表示を行う(関連用途をまとめること)	■適合範囲：工事範囲全域 工事区域から患者ケア区域への塵埃の進入を防止するため防護壁を設ける。(詳細図参照) 床~天井面： ・LGS65下地石膏ボード二重貼り(片面) ・LGS下地は床・天井面に両面テープ貼り ・床・壁・天井との取り合い部はテープ貼り(塵埃いれ防止) ・工事に用いる二重貼り 天井内： ・床・壁・天井との取り合い部はテープ貼り(塵埃いれ防止) ・原則設けない。設ける場合は鋼製W800xH2,000程度。 ■適合範囲：工事範囲全域 a. 工事区域内は常に陰圧を保つ。工事区域内の窓は原則密閉とし、工事区域内の排気ダクトを患者ケア区域から離れた場所で開催する。 b. ダクト開放場所を決定するために患者ケア区域の空気取り入れ口が近辺にないか確認する。 c. 工事区域内のダクト開放口には必要に応じてHEPAフィルターを設置する。 d. 工事区域内に外部から入室する場合、患者ケア区域の窓が開放され塵埃が流入しないようにする。 7月中旬~8月末(夏休み期間中)は、外来患者数が増加するため、原則平日昼間の作業を禁止する。	※改修工事全体のステップは参考資料を参照すること。 新設配管について STEP 1 棟ごとのメイン配管を施工。 廊下部分の各分岐枝配管を施工、バルブ止めとする。  STEP 2 各工事エリアの該部分のバルブ以降を施工。 衛生器具等へ配管接続。  既設配管について STEP 1 工事エリアごとにバルブ設置。  STEP 2 各工事エリアの配管撤去。  既設配管に関して、原則既存不使用配管は、残置とする。 水抜き等を適切に行い、構部ブラグ止めとすること。分岐部分についても切断し、ブラグ留めとする。 主管に対して、死に水が影響しないように、残置すること。 新設ダクトについて 棟ごとのメインダクトは既存利用とし、当該エリア改修時に各分岐以降を更新とする。 分岐部分のVDは開放とし、工事対象エリア外の風量バランスに影響のないよう工事を行うこと。  既利用ダクトに関して、工事前着手にダクトの汚れが運用に支障をきたす恐れが想定される場合、監督員に報告して協議を行うこと。										
	屋 倉庫・書庫	■アルミガラスクロス □アルミホイルペーパー+カラー金網																																																													
内 各階機械室	■アルミガラスクロス □アルミホイルペーパー+カラー金網																																																														
露 主 機 械 室	■アルミガラスクロス □アルミホイルペーパー+カラー金網																																																														
出 居室・廊下など	■カラー亜鉛鉄板 □アルミニウム板																																																														
屋内隠ぺい、DS内	□アルミホイルペーパー+カラー金網 ■アルミガラスクロス																																																														
屋外露出、多湿箇所( )	■ステンレス鋼板 □カラー亜鉛鉄板 □ガルバリウム鋼板																																																														
屋 倉庫・書庫	■アルミガラスクロス □アルミホイルペーパー+カラー金網																																																														
内 各階機械室	■アルミガラスクロス □アルミホイルペーパー+カラー金網																																																														
露 主 機 械 室	■アルミガラスクロス □アルミホイルペーパー+カラー金網																																																														
出 居室・廊下など	■綿布 □アルミガラスクロス																																																														
屋内隠ぺい、DS内	□アルミホイルペーパー+カラー金網 ■アルミガラスクロス																																																														
屋外露出、多湿箇所( )	■ステンレス鋼板 □カラー亜鉛鉄板 □樹脂製ダクト □ガルバリウム鋼板																																																														
2. 給排水衛生設備概要	□1) 給水設備	飲料水( □市水 □井水 ) 雑用水( □市水 □井水 □中水 □雨水 □工事用水 ) □水道直結式 □高置タンク式 □圧力タンク式 □ポンプ圧送式	■日報 ■週報 ■月報 ■工事進捗度 ■就業状況 ■搬入材、使用材状況 ■工事記録写真 ■施工計画書 ■施工要領書 ■施工図・機器製作図 ■総合図 ■試験・検査報告書 ■現場打合せ記録 ■申請・届出書類一覧表および同控 ■出来高調査および承諾願・請求書 ■変更工事見積書 ■自主検査報告書 ■工事完了届 ■竣工引渡書および受領書 ■図書明細書および受領書 ■検査済証 ■使用許可書 ■申請書・届出書 ■保証書 ■機器取扱説明書 ■備品類明細書および受領書 ■縫および鍵箱 ■備品 ■予備品 □工具および工具箱 ■保安工事図 ■竣工図 ■原因 ■製本 ■A3判縮小製本 ■修正CADデータ(CD-ROM) ■施工図製本 □竣工写真(指定アルバム)(DWG・DXF・JWW)	■竣工引渡し後、かしの担保期間内において工事不良のため生じた損害は、請負者の負担において、迅速、丁寧に復旧するものとする。	■管工事施工管理技士( ■1級 □2級) □建築設備士	■管工事施工管理技士( ■1級 □2級) □建築設備士	■管工事施工管理技士( ■1級 □2級) □建築設備士	■管工事施工管理技士( ■1級 □2級) □建築設備士	■管工事施工管理技士( ■1級 □2級) □建築設備士	■管工事施工管理技士( ■1級 □2級) □建築設備士	■管工事施工管理技士( ■1級 □2級) □建築設備士	■管工事施工管理技士( ■1級 □2級) □建築設備士	■管工事施工管理技士( ■1級 □2級) □建築設備士	■管工事施工管理技士( ■1級 □2級) □建築設備士	■管工事施工管理技士( ■1級 □2級) □建築設備士	■管工事施工管理技士( ■1級 □2級) □建築設備士	■管工事施工管理技士( ■1級 □2級) □建築設備士	■管工事施工管理技士( ■1級 □2級) □建築設備士	1) 特記事項のうちで選択する事項は ■印を適用する。	1) この特記仕様書は本工事の仕様についての特記である。 2) ここで述べる設計図書とは質疑回答書・現場説明書・特記仕様書・設計図書の総称である。	1) 本工事の仕様について設計図書に記載(指示)のない場合は下記仕様書の最新版による。 ■ 公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編)(社)公共建築協会 発行) ■ 公共建築改修工事標準仕様書(機械設備工事編)(社)公共建築協会 発行) (以下、「標仕」という。) ■ 建築工事標準仕様書・同解説(社)日本建築学会 発行)(以下、JASSという。)	本工事の仕様適用に対する優先順位は下記の通りとする。 ① 質疑回答書 ② 現場説明書 ③ 特記仕様書 ④ 設計図書 ⑤ 標仕およびその他の仕様書	設計図書に不備・不明の箇所を発見し、または疑義が生じたときは直ちに監理者と協議し、その協議の結果について監理者の承認付の記録書を作成しておくものとする。	本工事に関係ある法令、(条例等を含む広義の法を指す。以下、同じ)を遵守し、必要ある届出、手続きはすべて請負者が行う(但し、建築確認申請は除く)。その手続きに関する費用は請負者負担とする。	別契約の関連工事については、監理者の指示により、当該工事関係者と協力し、工事全体の円滑な進捗を図る。	支給材料・機器および貨品は、下記リストによる。 □	□ 指示された場所に整理(残材調書を添えて引渡す。) ■ 産業廃棄物として、関係法令に従い、かつ行政の指導をうけ承諾をうけた場所に搬出適切に処理。	本工事の施工により騒音、振動、塵埃、地盤沈下、道路損傷、通行障害等近隣に及ぼす公害が発生しないよう、各種法令を遵守し関連官公庁の指導をうけて進めること、万一損傷その他の危害が発生した場合は、請負者の負担により速やかに補償および補償をすること。	使用する材料および寸法等はJISおよびJASSの規格品とし本特記仕様書で指定されたメーカーおよび材料以外を使用する場合は同等とし、予め監理者に申し出て承諾をうける。 1) 本工事に使用する建材は、原則として「ゼロアス」の製品・資材とすること。 「ゼロアス」：アスベスト含有0% 2) 代替品が無い等の理由により、1) 以外の製品・資材を使用する場合には、監理者の承諾を得ること。 3) 竣工引渡し書類の「環境配慮事項まとめファイル」にゼロアスも含めてMSDS(製品安全データシート)を入れ、監理者に内容確認の上、施主へ提出・報告する。	工事に使用する材料のうち、設計図書に定められたもの、または監理者の指示のあるものは、公的試験所または監理者の認める試験所で試験を行い、その試験成績書を監理者に提出して、確認を受けなくてはならない。なお、これに要する費用は請負者の負担とする。	本工事の施工にあたって、監理者の立会いを受けなければならない項目は下記のものとする。 ■ 指示された施工または試験 ■ 各法令に基づく諸官庁の検査	■ 東日本大震災による耐震対策報告書(一般社団法人建築設備技術者協会)の以下によること。 ■ 標準的対策 □機能的対策	建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして以下の構造方法による。 ■ 建築設備(昇降機を除く。)、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとする。 ■ 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。 □ 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支柱を設けたものを除き、90cm以下とすること。 □ 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、 ■ 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。 ■ 建築物の部分貫通して配管する場合には、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等、有効な衝撃損傷防止のための措置を講ずること。 ■ 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可とう継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。 ■ 管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。 ■ 法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものについては、建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。 ■ 給湯設備は、支持構造部及び緊結金物を腐食又は腐朽のおそれがないものとするほか、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。	(1) 「標仕」によるほか下記による。ただし各工事種目で別に指定されたものは除く。 又、保温材は原則としてグラスウールとする。 (2) ダクトの保温外装は下記による。 <table border="1"> <tr> <td>屋 倉庫・書庫</td> <td>■アルミガラスクロス □アルミホイルペーパー+カラー金網</td> </tr> <tr> <td>内 各階機械室</td> <td>■アルミガラスクロス □アルミホイルペーパー+カラー金網</td> </tr> <tr> <td>露 主 機 械 室</td> <td>■アルミガラスクロス □アルミホイルペーパー+カラー金網</td> </tr> <tr> <td>出 居室・廊下など</td> <td>■カラー亜鉛鉄板 □アルミニウム板</td> </tr> <tr> <td>屋内隠ぺい、DS内</td> <td>□アルミホイルペーパー+カラー金網 ■アルミガラスクロス</td> </tr> <tr> <td>屋外露出、多湿箇所( )</td> <td>■ステンレス鋼板 □カラー亜鉛鉄板 □ガルバリウム鋼板</td> </tr> </table> (3) 配管の保温外装は下記による。(冷媒管は除く) <table border="1"> <tr> <td>屋 倉庫・書庫</td> <td>■アルミガラスクロス □アルミホイルペーパー+カラー金網</td> </tr> <tr> <td>内 各階機械室</td> <td>■アルミガラスクロス □アルミホイルペーパー+カラー金網</td> </tr> <tr> <td>露 主 機 械 室</td> <td>■アルミガラスクロス □アルミホイルペーパー+カラー金網</td> </tr> <tr> <td>出 居室・廊下など</td> <td>■綿布 □アルミガラスクロス</td> </tr> <tr> <td>屋内隠ぺい、DS内</td> <td>□アルミホイルペーパー+カラー金網 ■アルミガラスクロス</td> </tr> <tr> <td>屋外露出、多湿箇所( )</td> <td>■ステンレス鋼板 □カラー亜鉛鉄板 □樹脂製ダクト □ガルバリウム鋼板</td> </tr> </table>	屋 倉庫・書庫	■アルミガラスクロス □アルミホイルペーパー+カラー金網	内 各階機械室	■アルミガラスクロス □アルミホイルペーパー+カラー金網	露 主 機 械 室	■アルミガラスクロス □アルミホイルペーパー+カラー金網	出 居室・廊下など	■カラー亜鉛鉄板 □アルミニウム板	屋内隠ぺい、DS内	□アルミホイルペーパー+カラー金網 ■アルミガラスクロス	屋外露出、多湿箇所( )	■ステンレス鋼板 □カラー亜鉛鉄板 □ガルバリウム鋼板	屋 倉庫・書庫	■アルミガラスクロス □アルミホイルペーパー+カラー金網	内 各階機械室	■アルミガラスクロス □アルミホイルペーパー+カラー金網	露 主 機 械 室	■アルミガラスクロス □アルミホイルペーパー+カラー金網	出 居室・廊下など	■綿布 □アルミガラスクロス	屋内隠ぺい、DS内	□アルミホイルペーパー+カラー金網 ■アルミガラスクロス	屋外露出、多湿箇所( )	■ステンレス鋼板 □カラー亜鉛鉄板 □樹脂製ダクト □ガルバリウム鋼板	既存コンクリート床、壁等の配管貫通部の穴開けは、原則としてダイヤモンドカッターによる。構造上影響を及ぼさないよう適切に処理を行うこと。 スリーブ、箱入りその他他工事との取り合いは、別紙工事区分表によるものとし、施工に支障を来さない時期までに、必要な位置、大きさなどを明記し、監理者と打ち合わせる。 原則として製造者標準色とするが、下記の機器については塗装色の指定を行う。 □有圧扇フード □空調屋外機 ■換気用ベントキャップ □消火栓ボックス ■屋外露出部の機器・配管等取付のための支持架台・金物は、溶融亜鉛メッキとする。同用ボルト・ナット等は、ステンレス製とする。取付に際しては、異種金属接触を確実に行うこと。 ■機械室及び屋上の床上配管には、点検が容易に出来るように監理者の指示により部分的にデッキ等を取付けること。 □蓄熱槽の清掃、水張り試験後、満水状態で水質測定を行い、基準値を満足していることを確認すること。 □蓄熱槽系の配管フラッシングは、蓄熱槽以外フレッシュな用水を確保し、又、蓄熱槽以外の排水先を確保して行うこと。 天井点検口裏面に点検用途の表示を行う(関連用途をまとめること)	■適合範囲：工事範囲全域 工事区域から患者ケア区域への塵埃の進入を防止するため防護壁を設ける。(詳細図参照) 床~天井面： ・LGS65下地石膏ボード二重貼り(片面) ・LGS下地は床・天井面に両面テープ貼り ・床・壁・天井との取り合い部はテープ貼り(塵埃いれ防止) ・工事に用いる二重貼り 天井内： ・床・壁・天井との取り合い部はテープ貼り(塵埃いれ防止) ・原則設けない。設ける場合は鋼製W800xH2,000程度。 ■適合範囲：工事範囲全域 a. 工事区域内は常に陰圧を保つ。工事区域内の窓は原則密閉とし、工事区域内の排気ダクトを患者ケア区域から離れた場所で開催する。 b. ダクト開放場所を決定するために患者ケア区域の空気取り入れ口が近辺にないか確認する。 c. 工事区域内のダクト開放口には必要に応じてHEPAフィルターを設置する。 d. 工事区域内に外部から入室する場合、患者ケア区域の窓が開放され塵埃が流入しないようにする。 7月中旬~8月末(夏休み期間中)は、外来患者数が増加するため、原則平日昼間の作業を禁止する。			
屋 倉庫・書庫	■アルミガラスクロス □アルミホイルペーパー+カラー金網																																																														
内 各階機械室	■アルミガラスクロス □アルミホイルペーパー+カラー金網																																																														
露 主 機 械 室	■アルミガラスクロス □アルミホイルペーパー+カラー金網																																																														
出 居室・廊下など	■カラー亜鉛鉄板 □アルミニウム板																																																														
屋内隠ぺい、DS内	□アルミホイルペーパー+カラー金網 ■アルミガラスクロス																																																														
屋外露出、多湿箇所( )	■ステンレス鋼板 □カラー亜鉛鉄板 □ガルバリウム鋼板																																																														
屋 倉庫・書庫	■アルミガラスクロス □アルミホイルペーパー+カラー金網																																																														
内 各階機械室	■アルミガラスクロス □アルミホイルペーパー+カラー金網																																																														
露 主 機 械 室	■アルミガラスクロス □アルミホイルペーパー+カラー金網																																																														
出 居室・廊下など	■綿布 □アルミガラスクロス																																																														
屋内隠ぺい、DS内	□アルミホイルペーパー+カラー金網 ■アルミガラスクロス																																																														
屋外露出、多湿箇所( )	■ステンレス鋼板 □カラー亜鉛鉄板 □樹脂製ダクト □ガルバリウム鋼板																																																														

———— 新設配管を示す  
 - - - - - 既設配管を示す  
 ————|——— 配管接続箇所を示す

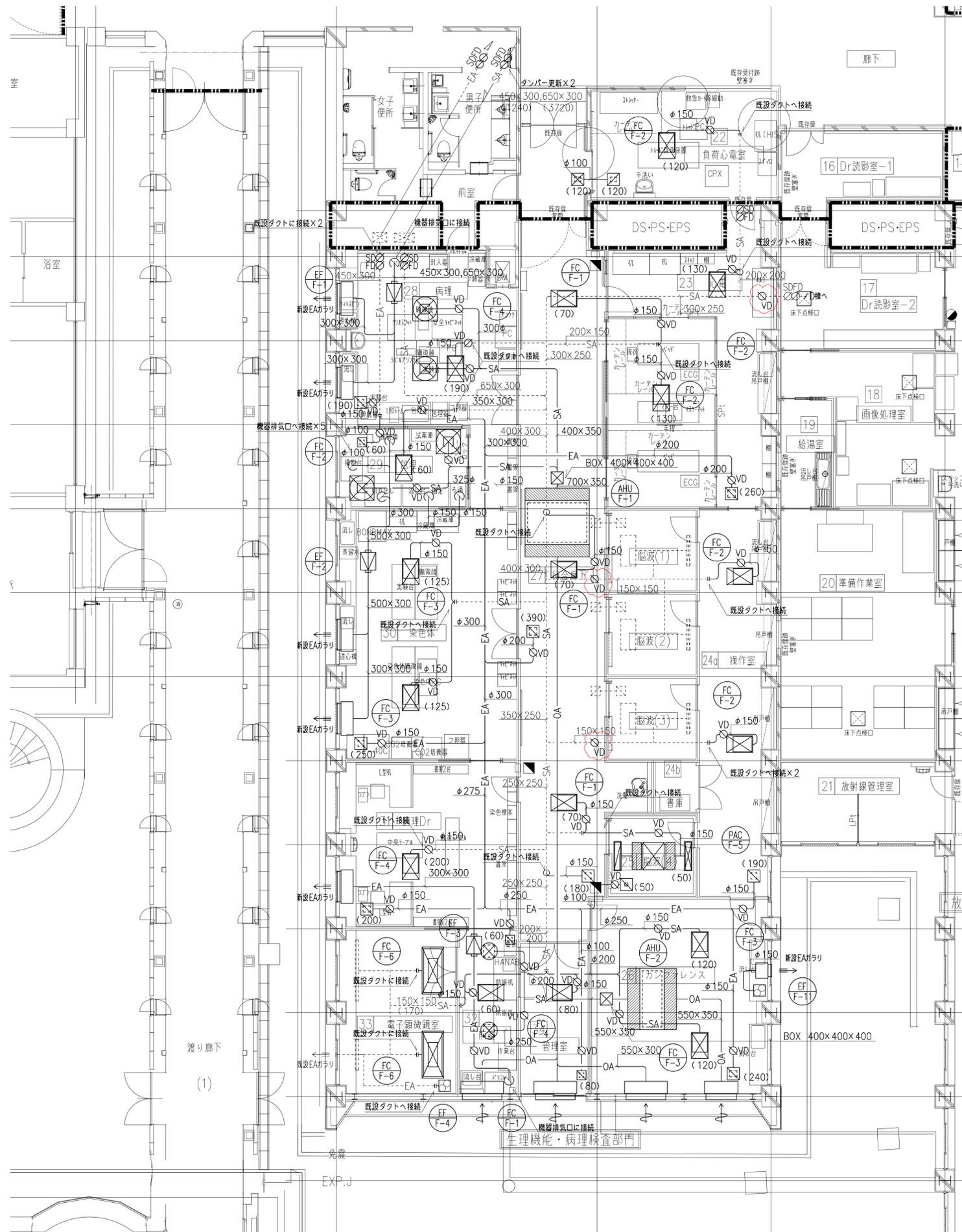
<注記>  
 1. ダクト材質は特記仕様書による。  
 2. ( )内の数値は風量を示す。

F 棟



5.460

4.500



28 病理 EA GVS 200x200 190m <sup>3</sup> /h BOX:400x400x400 内貼25t共	22 負荷心電室 バス GVS 200x150 120m <sup>3</sup> /h BOX:400x400x400 内貼25t共
28 病理 SA C2 #37.5 1,220m <sup>3</sup> /h BOX:650x650x400 内貼25t共	23 心電 EA GVS 250x250 260m <sup>3</sup> /h BOX:400x400x400 内貼25t共
29 包埋 EA GVS 100x150 60m <sup>3</sup> /h BOX:400x400x400 内貼25t共	24 操作室 EA GVS 200x200 190m <sup>3</sup> /h BOX:400x400x400 内貼25t共
29 包埋 SA C2 #40 1,305m <sup>3</sup> /h BOX:650x650x400 内貼25t共	25 脳波 (4) EA GVS 200x200 50m <sup>3</sup> /h BOX:400x400x400 内貼25t共
30 染色体室 EA GVS 200x250 250m <sup>3</sup> /h BOX:400x400x400 内貼25t共	25 脳波 (4) SA BL-D 1000 870m <sup>3</sup> /h BOX:1200x300x400 内貼25t共
31 病理 Dr EA GVS 200x200 200m <sup>3</sup> /h BOX:400x400x400 内貼25t共	25 脳波 (4) RA BL-D 1000 870m <sup>3</sup> /h BOX:1200x300x400 内貼25t共
32 前室 EA GVS 150x150 60m <sup>3</sup> /h BOX:400x400x400 内貼25t共	26 カンファレンス EA GVS 200x250 240m <sup>3</sup> /h BOX:400x400x400 内貼25t共
32 前室 SA C2 #30 685m <sup>3</sup> /h BOX:500x550x400 内貼25t共	27 符合廊下 バス GVS 200x150 120m <sup>3</sup> /h BOX:400x400x400 内貼25t共
34 管理室 EA GVS 150x150 80m <sup>3</sup> /h BOX:400x400x400 内貼25t共	27 符合廊下 EA GVS 250x250 390m <sup>3</sup> /h BOX:400x400x400 内貼25t共

———— 新設ダクトを示す  
 - - - - - 既設ダクトを示す  
 ||----- ダクト接続箇所を示す

<注記>  
 1. ( )内の数値は风量を示す。

凡例  
 ■ 防火区画 (令第112条)

